

日本の20年先に行く10万人大都市による官民協働プラットフォームを活用した「問い」「学び」「共創」の未来都市創造事業 福岡県大牟田市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

福岡県の最南端にあり、福岡都市圏と熊本都市圏の中間に位置する、人口105,753人（2024年4月1日）の都市。高齢化率は38.1%で、10万人以上の都市においては全国で2番目に高く、日本の20年以上先に行く。少子高齢化や核家族化の進行、それに伴う一人暮らし世帯や高齢者のみの世帯の増加により、地域のつながりや家庭の機能の低下が生じているため、まち全体で地域におけるつながりや次代を担う人材の育成が求められている。将来にわたって安心して暮らし、大牟田市に住んでいることを自ラ誇ることができるまちづくりを、市民とともに実現することを目指している。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

児童生徒が持続可能な社会の創り手となれるよう、夢や目標に向かって意欲的に学ぶ力を育成するとともに、自ら課題を発見し、多様な人々と協働しながら主体的に解決する力を育成するため、市民団体や地元企業等との連携を図り、各学校が重点とするSDGsの達成を目指したESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）を核とした取組を実施している。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

2012年1月、日本で初めて市内全ての市立学校がユネスコスクールの認定を受け、学校や地域の実態に合わせて特色あるESDを進めている。

有明海、大牟田市動物園、世界文化遺産の「三池港」「宮原坑」を有するという、オンリーワンの特色を活かした事業を展開。

【経済】近代化産業遺産活用事業

- 世界遺産学習「宮原坑子どもボランティアガイド」等



福祉学習

【社会】地域認知症ケアコミュニティ推進事業

- 福祉学習「絵本教室」、子ども民生委員等

【環境】省エネ行動促進事業

- 環境学習環境教育の実施及び海洋教育の支援等



世界遺産学習



環境学習

5. 取組推進の工夫

- 市をあげて推進するため、大牟田市ESD推進本部の設置。
- 国際連合大学(国連大学)との連携。
- 行政、学校、地元企業、地域との連携（出前授業、研修会等）。
- 市民への啓発（市広報紙への掲載・講座の実施）。

6. 取組成果

- 国連大学が認定するESD実践拠点「RCE」への加盟認定を受けた際、認定式と外務省からの挨拶並びに国連大学による記念講演を開催した。2023年7月には、行政、学校、地域、企業、団体等のステークホルダーが参加し、持続可能な大牟田のまちづくり・SDGsの達成のために、各々ができることについて、交流会を行った。この会では、様々なステークホルダーが連携・協働して取り組むことが重要であることを確認し合うことができた。この交流会を機会として、様々な協働実践が生まれ、ESDの新たな展開をみることもできた。
- 各種団体の会合等に市教育委員会の指導主事等が随時出向き、SDGs/ESDについて講話を4回行った。（2023年度実績）

7. 今後の展開策

- ・行政のみならず、地域住民や企業をはじめ、内外のより多くのステークホルダーを巻き込んだ事業展開により好循環を生み出すことでSDGsの達成に繋げていく。
- ・ESD（学び）を核としているため、継続的な事業実施により、成果の更なる深化及び拡大を図る。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

- ・2023年7月に、教職員や市役所職員、市内企業、関係団体、学生等が集い、SDGs/ESDに関する活動や今後の取組について協議する、「ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会」（約180名 参加）を開催。
- ・2024年2月に、国内のRCE団体との会議に参加。